

平成 23 年度カリキュラムの構築

谷川 聡, 福田 崇, 鍋倉賢治, 遠藤卓郎, 武田 剛

体育センターは、新しい大学体育カリキュラムの構想に向けて、検討を重ね、平成 23 年度には新構想に基づくカリキュラムを試行的に実施する予定である。ここでは、平成 21 年から研究プロジェクトチームの G2 が編成され、共通科目「体育」の理念と目標の見直しから、G2 の新カリキュラムを作成した内容、実施予定までを報告する。

1. 旧カリキュラムの概要

これまでのカリキュラムでは、これからの社会におけるスポーツ・運動の意義や価値を、二つの視点から捉えていた。一つは、体力の低下や様々な健康障害を引き起こしており、スポーツ・運動の必要性がますます増大しており、これからの人生をよりたくましく生きるには、運動による健康・体力づくりのための知識と実践能力を高めておかねばならない。二つ目には、労働時間短縮によって自由時間が増大し、経済的ゆとりが生じてきたにもかかわらず、自己実現・自己開発を図ることや、クオリティーオブライフを確立するために、幅広い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することが重要であり、文化・教養としてのレジャー・スポーツライフの確立が求められる。そこで、本学においては、生涯にわたる健康・体力づくりや生涯にわたってスポーツの楽しさを享受する能力を高めることをねらいにして、体系的な体育のカリキュラムが作成した。

そのカリキュラムの基本的な考え方は、

- ① 体育の学習は、聞く、読む、見るだけでは成立し得ないのであって、実際の活動を通

してはじめてなし得るものである。すなわち体育は、運動実技を通しての学習であり、実技・実習を中心的な学習内容とする。

- ② ①に加えて、生涯スポーツ理論、健康・体力づくり理論等これからの望ましいライフスタイルの確立に欠かせない講義も学習内容とする。
- ③ 共通科目「体育」の必修単位は、2~4 単位であり、体育の基礎的な学習内容を 2 年次までにしっかり学び、より進んだスポーツ技能、健康・体力づくり運動の学習は、3・4 年次に選択必修とする。これらのほかさらに幅広い教養としてのスポーツや健康・体力づくりの理論を修得するために自由科目「体育」が開設されるので、積極的に履修することが望ましい。

そこで本学における体育の目標は、

- ① 生涯にわたってスポーツの楽しさを享受する能力を高め、自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツを生活に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につける。
- ② 自己の健康・体力に対する認識を深め、健康・体力づくりのための運動方法を理解し、生涯にわたって自主的に健康・体力づくりを実践する能力や態度を高める。

としていた。このように、文化・教養としてのアプローチからより豊かに生きる知恵を持ち欲求を充足させ、自然科学的アプローチからよりたくましく生きる知恵を持ち必要を充足させることでスポーツ・運動の意義や価値を高めることを目標にし、2~3 単位の必修で通年もしくは集中での「体育」をおこなっていた。

2. 共通科目「体育」の理念と目標の見直し

旧カリキュラムの概要を踏まえた上で、カリキュラム全体を練り直すため、G2内で『学生の実態からのカリキュラム作成の視点』と2つの『新カリキュラムの概要』を作成し、「たくましい心と身体の知のフォーラム」（平成22年3月）にて提案した。『学生の実態からのカリキュラム作成の視点』では、カリキュラム提案には学生の実態把握が必要であること、満足感・充実感はおおむね良好であるものの、学年ごとの長所・短所に特性に応じたカリキュラム展開の必要性が示され、科目選択の問題点が指摘され、エビデンスに基づくカリキュラム作成が求められた。また、『新カリキュラムの概要』として、①教育目標達成のための特色のある大学体育②4単位制の基にした筑波体育、が発表され、その後、最終的に発展的なカリキュラムを作成することが決定され、「基礎体育・応用体育・発展体育」といった学年に応じ、3単位必修の発展的なカリキュラムを作成することとなった。

同時に、共通科目「体育」の理念と目標の見

直しについて各教員のアンケートなどをおこない、10回の会議を経て「筑波体育」の理念と目標が以下のように作成された。

3. 平成23年度1年次カリキュラムの作成と実施

1年次においては、「スポーツリテラシー」基礎体育として、多種多様なスポーツによる『健やかな身体、豊かな心、たくましい精神』の育成を目標とし、1年間でフィジカルリテラシー・スポーツマインド・スポーツスピリッツの3つのカテゴリーに分けて総合的な学習をさせることになった。

以上のように、筑波体育の理念と教育目標、カリキュラムの構成と要旨を基に、平成23年度からは単位数、時間換算、固定時間割などについて大枠については、これまでと変更なくおこなう予定であるが、平成25年度の2学期制を見据えて、さらにカリキュラムを変更せざるを得ず、今後も検討を進めていく予定である。

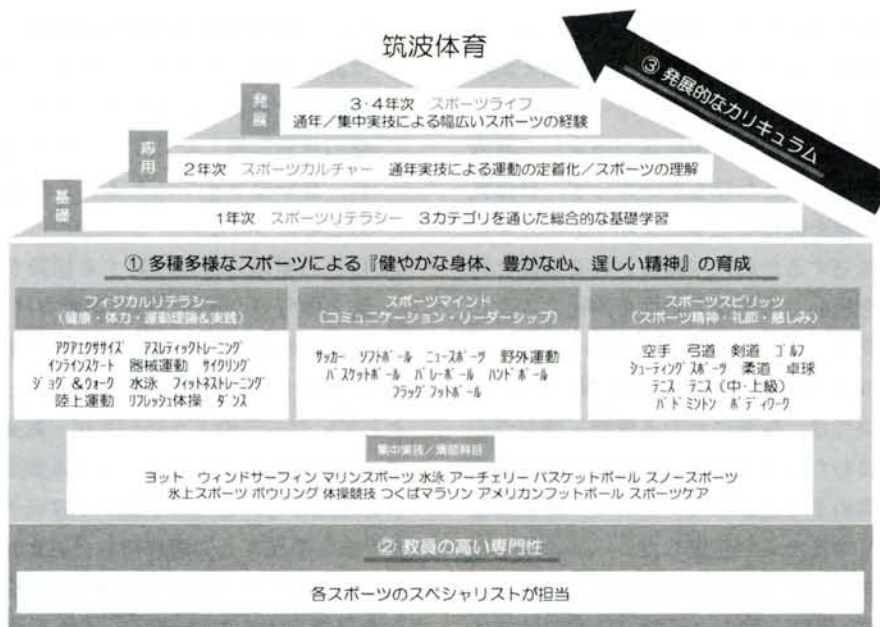


図1 新しい筑波体育のカリキュラム

筑波体育

理 念

健やかな身体、豊かな心、 逞しい精神を育む筑波体育

筑波体育は、高等教育における身体的側面からの人間教育を担うべく、最新のスポーツ科学を基にした多様なスポーツ実践を通して、健やかな身体、豊かな心、逞しい精神を育み、高潔な人間性と倫理観を養うとともに、自立的に自己を成長させ続ける力を持った学生を育成すべく、以下の目標を掲げ、達成せんとするものである。

教育目標

1. 健康・体力およびスポーツ技術に関する基礎的知識や思考力、実践力の養成

最新のスポーツ科学を基にしたスポーツ実践を通して、自己の健康・体力、スポーツ運動に関する基礎的知識・思考力等を獲得せしめると共に、それを実践できる能力を養う。

2. 豊かな心と社会性（コミュニケーション力、リーダーシップ等）の醸成

学類を越えた学生相互の動的ふれあいを通して、良好な人間関係を築くとともに、共有する課題や目標に挑戦する中で、それを達成しえた時の喜びを仲間とともに分かち合える力を養う。

3. 逞しい精神、高い倫理観の育成

新たな目標を目指し、困難な課題や厳しい状況を克服して行く中で、チャレンジ精神や不屈の精神等を鍛えるとともに、自然や人間との直接的・間接的対峙の中で、慈しみや礼節を尊び、相互に尊重し合う等、高潔な人間性、規範意識、倫理観を養う。

4. スポーツ文化の知的解釈力・鑑賞力の涵養

多様なスポーツの実践と観戦を通して、スポーツの持つ文化的・芸術的価値に気づき、より高度な解釈力・より深い鑑賞力を養うとともに、より質の高い実践力を育むことによって、スポーツを生涯にわたって楽しみ、支援して行く力の基礎や態度を醸成する。

5. 自立的に自己を成長させ続ける力の涵養

運動することを単に体育・スポーツのみの問題として捉えるのではなく、環境や社会的問題との関わりの中で捉えられるよう、多角的・学際的・総合的な視点に立ち、生涯を通じて自己啓発し続けるための基礎を築かせる。

カリキュラムの構成と趣旨

筑波体育の教育目標を達成するために、以下のよう
にカリキュラムを構成する。

【基礎体育】スポーツリテラシー

「スポーツを学ぶ」

履修年次 1年次

該当する筑波体育の教育目標	健康・体力およびスポーツ技術に関する基礎的知識や思考力、実践力の養成 豊かな心と社会性（コミュニケーション力、リーダーシップ等）の醸成 逞しい精神、高い倫理観の育成
履修形態	下記3つのカテゴリーから1種目を選び1学期間に1つずつ履修し、1年間で3カテゴリーから3種目を履修する。
学習目標	異なるカテゴリーから履修し、身体とスポーツに関する偏りのない基礎を学ぶ。

3つのカテゴリー

A：フィジカルリテラシー

主に個人スポーツを教材として、健康・体力及び運動に関する理論と実践力等を養う。

B：スポーツマインド

主に集団スポーツを教材として、コミュニケーション力、リーダーシップ等を養う。

C：スポーツスピリッツ

主に対人スポーツを教材として、スポーツ精神や礼節、慈しみの態度等を養う。

【応用体育】スポーツカルチャー

「スポーツ文化を学ぶ」

履修年次 1年次

該当する筑波体育の教育目標	健康・体力およびスポーツ技術に関する基礎的知識や思考力、実践力の養成 豊かな心と社会性（コミュニケーション力、リーダーシップ等）の醸成 逞しい精神、高い倫理観の育成
履修形態	下記3つのカテゴリーから1種目を選び1学期間に1つずつ履修し、1年間で3カテゴリーから3種目を履修する。
学習目標	異なるカテゴリーから履修し、身体とスポーツに関する偏りのない基礎を学ぶ。

【発展体育】スポーツ＆ライフ

「スポーツで学ぶ、深める、構築」

付記

本報告は、日本学術振興会科学研究費補助金
基盤研究（A）（課題番号 21240060）の一部で
ある。